

令和六年一月二十三日

清礼の儀

神 示

人間は 時代の流れの中で

万人・万物に触れて 人生を染めて行く

出会いを生かした人間は

人生を極め 「心の道」に良き因を残す

なれど 出会いを生かせずに 人生を枯らす人間も多い

「真理」に生きるか 否か その姿が 晩年に表れる

信者に申す

神示「真理」に多くの気付きを得て

祈願で「実体」を修正する 努力を欠いてはいけない

一日を 祈願で始め 祈願で終える

この積み重ねに 成果が必ず出る

一日の歩みが一年となり 迎えた年には 必ず分魂を返納する

分魂を納めることで 信者の人生は 新たな年の流れに乗れる

「真理」なき知識に 心惑わされ

実体を下げて 自ら悩み 苦しむ

弱き心の動きを知って

信者は「教え」を学び 祈願で実体を高めるべし

神徽魂清の力をもって

迷う信者の人生を引き上げ 安定させる

清礼の心が ここにある